

市内景気動向調査結果

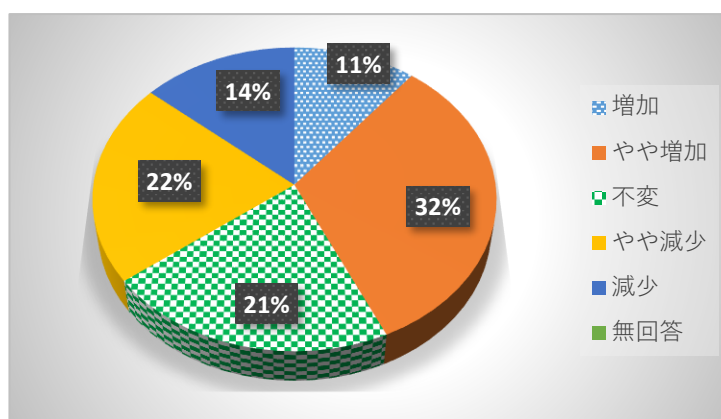
この調査は、第1四半期（本年4月から6月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
102	27	16	8	17	24	10

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、飲食業

1. 売上高はどう変化したか。

増加	11
やや増加	33
不変	22
やや減少	22
減少	14
無回答	
合計	102

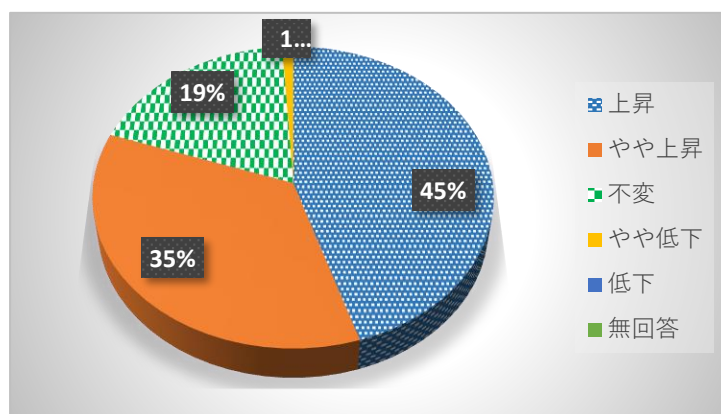


【コメント】

- 増加・やや増加が43.1%、不変が21.6%、やや減少・減少が35.3%であった。前年同期では、増加・やや増加が35.4%、不変が22.9%、やや減少・減少が41.7%であったので、若干改善傾向にある。
- 増加・やや増加の業種割合は、運輸業が62.5%、製造業が50.0%、サービス業が45.8%、卸小売業が41.2%、建設業が29.6%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、卸小売業が47.1%、建設業が40.7%、運輸業が37.5%、製造業が31.3%、その他が30.0%、サービス業が25.0%であった。
- コロナ禍ではあるが、社会経済活動が若干活発になったことが売上増加に繋がった。ただし、原材料価格高騰分を販売価格に転嫁したため売上増となった事例もあった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	46
やや上昇	36
不変	19
やや低下	1
低下	
無回答	
合計	102



【コメント】

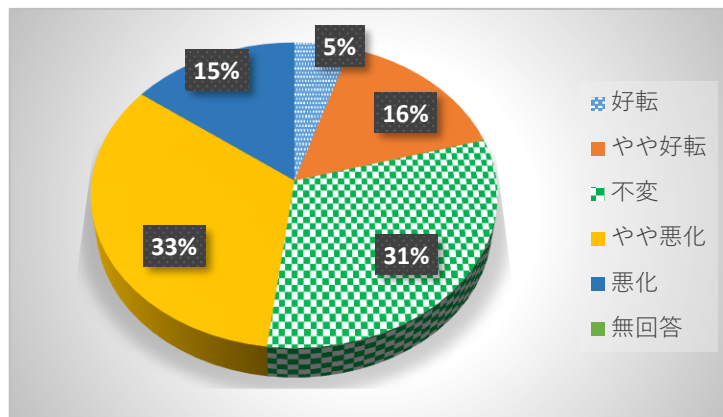
- 上昇・やや上昇が80.4%、不変が18.6%、やや低下・低下が1.0%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が45.8%、不変が45.1%、やや減少・減少が

6.9%であった。

- 上昇・やや上昇の業種別割合は、製造業が100.0%、その他が90.0%、建設業が88.9%、卸小売業が82.4%、サービス業が66.7%、運輸業が37.5%であった。
- 中国のゼロコロナ政策で生産拠点都市がロックダウンとなり、サプライチェーンの寸断による原材料不足、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格の高騰が要因で、仕入単価の大幅な上昇となった。

3. 採算について

好転	5
やや好転	16
不変	32
やや悪化	34
悪化	15
無回答	
合計	102

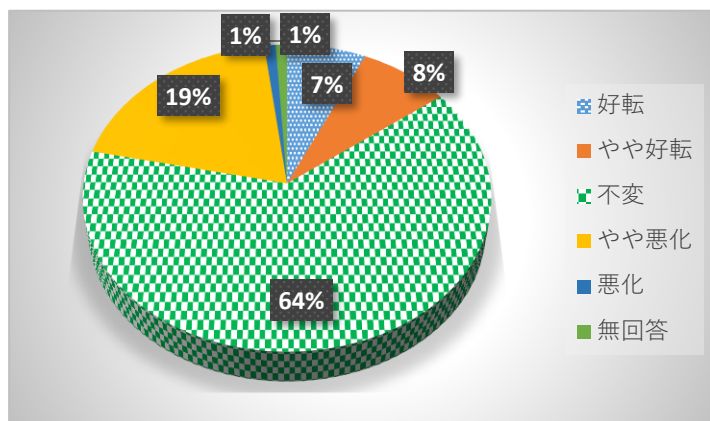


【コメント】

- 好転・やや好転が20.6%、不変が31.4%、やや悪化・悪化が48.0%であった。前年同期の好転・やや好転が19.4%、不変が37.5%、やや悪化・悪化が43.1%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が52.9%、運輸業が50.0%、その他が50.0%、建設業が48.1%、サービス業が45.8%、製造業が43.8%となっている。
- 原材料、エネルギー価格の上昇がこのまま進めば、価格転嫁が追いつかずますますの採算悪化が予想される。

4. 資金繰りについて

好転	7
やや好転	8
不変	65
やや悪化	20
悪化	1
無回答	1
合計	102

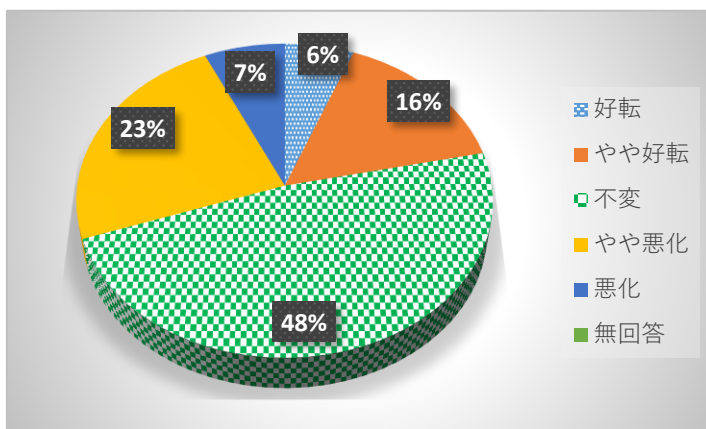


【コメント】

- 好転・やや好転は14.7%、不変が63.7%、やや悪化・悪化が20.6%であった。前年同期の好転・やや好転が12.5%、不変が62.5%、やや悪化・悪化が25.0%であった。
- 資金繰り悪化の割合が高い業種では、その他が40.0%、卸小売業が29.4%、サービス業が16.7%であった。
- このまま原材料等の価格が上昇すれば、しだいに資金繰りが悪化すると予想されるが、現状では資金需要が増えている状況にはない。
- 採算がさらに悪化し、資金不足を借入金で賄うようになれば返済負担が大きくなり、企業経営を圧迫すると予想される。

5. 業況について

好転	6
やや好転	16
不変	49
やや悪化	24
悪化	7
無回答	
合計	102

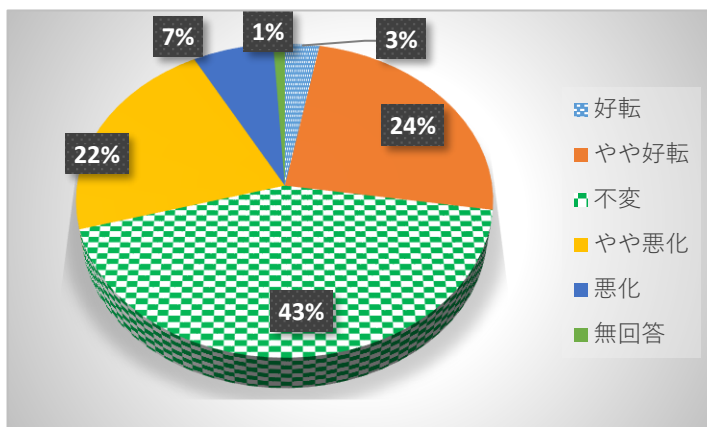


【コメント】

- 好転・やや好転は21.6%、不変が48.0%、やや悪化・悪化が30.4%であった。前年同期は、好転・やや好転が19.4%、不変が41.0%、やや悪化・悪化が39.6%であった。
- 業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が47.1%、運輸業が37.5%、その他が30.0%、サービス業が29.2%であった。
- 原材料・エネルギー価格の高騰、資材不足、新型コロナウイルスの感染再拡大で今後、業況の好転が難しい状況にある。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	3
やや好転	25
不変	44
やや悪化	22
悪化	7
無回答	1
合計	102



【コメント】

- 好転・やや好転が27.5%、不変が43.1%、やや悪化・悪化が28.4%で、前年同期では、好転・やや好転が29.2%、不変が50.0%、やや悪化・悪化が20.1%であった。
- 今後3ヶ月間の業況予想では、好転・やや好転と悪化・やや悪化がほぼ同じ割合となっている。
- 中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻、新型コロナの感染拡大状況により振れ幅が大きくなると予想される。

■ 回答事業所からのコメント

【建設業】

- 前年同期と比較すると売上は減少しましたが、今後の工事の見通しは立っているため、特に変わらずの業況となると思われます。
- 資材価格の上昇に対し、原価の圧縮が追いつきません。
- 市役所発注物件の工事量の不安要素を含め、世界的な物価高により、資材等、逆ざやになっている。

- 企業関係が動いてきたため。
- 年に数回、材料費が上がり、その状況に消費者側も付いてこれていないため。
- 人手不足が最大の原因となります。業況をよくするためには、人手不足の解消が必須です。
- コロナ禍による製品の遅延が徐々に解消されたことや、4月より北広島市住宅リフォーム助成事業が行われたことにより受注増となっています。しかし今年に入ってから資材や製品の値上率が過去にないほど高く、今後の受注に大きく影響してくると予想されます。
- 現場の数が減っています。
- 受注高の変化はありません。
- 大雪のため延びていた工事が始まったのと雪害工事が出るようになったことが、少し好転に繋がったと思います。それも終わってしまったときは先が未だ見えない状態です。長期受注がなかったら不安定な状態です。
- 物価高騰により、お客様に理解していただき、説明のうえ価格を上げさせてもらっています。
- コロナや社会情勢の変化により、原価の高騰。人手不足による人件費の高騰。自社の事情により売上高減少（人手不足など）
- ボールパーク工事による共同事業体の工事を何年間か受注しているため好転となっている。
- 材料の大幅な値上げがあったが、昨冬の大雪の影響で仕事が増加したため。
- コロナの影響で現場が延期。材料代の高騰により。

【製造業】

- コロナの影響が少なくなりつつある。市場が好転してきている。
- 物の調達難により納期遅延が拡大。今後も仕入品の納期情報が延びており、完成品出荷が難しくなる見込みです。
- 人材不足によるチャンスロス。
- 新部門立ち上げによる。品不足のやや解消。
- 建設業への資材販売です。円安、コロナからの資材高騰、輸入量の減少など対応していけるか心配です。
- コロナ禍、世間の情勢変化も少し見受けられるが、本年度スタートにあたり、受注生産予測、推測も若干の戻り状況にあるものの、依然、前通り（コロナ前）には回復が望めない状況です。併せてエネルギー単価、原資材類の相次ぐ値上げ、医薬品の薬価ダウンで前年前期と変わらず厳しい状況が続く。
- 材料の高騰による中小の建築案件の減少。秋以降、来年の見積がない状況です。
- 新規ルートがやや軌道に乗った。

【運輸業】

- 軽油単価の高止まりが見込まれるため。
- 地域向けの旅行商品を開発し、どうみん割等の支援もあり、その分の稼働があったため売上高はやや増加しました。しかしながらコロナ前の状況に比べれば非常に厳しい状況にあることには変わりはありません。今後インバウンドの増加によって、やや好転するだろうと考えておりますが、行政の心一つで左右される状況に変わりはありません。
- 業界全体の流れがすぐれなく、依頼される仕事量が減少している。
- 石油製品の価格の高騰が続くと予測されるため。
- 去年は好調でしたが、終結しないコロナ問題が影響してきたと思われれます。

【卸小売業】

- 売上減少の原因は何とんでも商品の入荷の大幅な遅れ。特に海外からのものが入ってこない。納期の問い合わせに対しても、今年中は無理、という回答が来るような状況。
- 政府の無能な経済政策による円安や燃料費の高騰（アベノミクスや新自由主義では格差社会が益々ひどくなる）
- 物価高による消費の減少。

- 売上高が増加したのは、仕入単価の上昇分を価格に転嫁したため。
- 新車不足で中古車は好調です。
- 観光で北海道を訪れる人が増加しているように感じる。道内の人の流れも多くなってきたので、観光業に復活の兆しが見えてきている。
- 家畜用飼料および化学肥料等の高騰により、自家飼料の生産および自家の堆厩肥の完熟生産の傾向があり、そのため添加する有機質植物株複合乳酸菌や有機飼料の効能が理解されつつあることから、今後、関連する業務が穏やかではあります但し好転すると思われず。
- 仕入単価や円安の影響大。季節により売上の上下あり。夏場は上。
- 何となく活気がありません。夜も8時くらいになると人も車も余り動いてないように思います。
- 社会の変化に対応できなくなっています。
- 値上げやウクライナ問題、燃料高に加え、電力の更なる値上げは状況の悪化を招くと考えています。生活防衛と価格競争の激化によって、客数低下を予想しています。
- 商品の入荷遅れのため工事が遅れてしまった分、8月以降に先延ばしとなる。

【サービス業】

- コロナ感染状況の推移から社会経済活動の再開、正常化などにより回復しつつあると思料しています。（石油、物価上昇等懸念材料は存在する）
- コロナ禍ではありますが、攻めることにより現状の打開の道を探る目的で、新規教室を4校開校しました。その教室が生徒増につながり、今まで最高の生徒数になりました。しかし仕入単価の高騰やガソリンの値上がり等により原価アップになっているため、今後ほどの段階で価格に反映させるかが課題です。
- 売上は上がっていても経費（仕入、運搬費、光熱費等）が売上以上に増加しており業況は「やや悪化」している。
- 仕入れ価格の高騰のため。
- やはりコロナの状況の変化か。
- 売上変わらずコスト増。世の中値上げラッシュの影響を受けているが、当店は単価を値上げするのが容易ではない業種のためコストばかりが増していく。
- 仕入原価の高騰によるもの。
- 売上減少要因は、契約先の状況により弊社への委託がなくなった。また今後3ヶ月の業況では、福祉に関する指定がもらえたので営業展開を図るし、契約までできる状態の案件が数件あるため。
- 資材等の値上げにより、経費が圧迫されているのに対し、材料費の価格転嫁が思うように進まないため、採算に影響が出ている。業況については、コロナ禍での体制が昨年と比べさほど変わりなく、今後の状況によっては好転することを期待する。
- コロナ関連の感染対策（緊急事態宣言等）の緩和から、経済全体を廻す方向性となったため、観光業も回復傾向となり、クリーニング業も一定の売上が期待できる状況となった。今後7～9月からも外国人の入国規制緩和や夏休み・お盆等の関係から、売上の大幅な減少はないと想定される。しかしながら、世界的物流影響による重油・資材の値上げが継続的かつ不透明さの影響を受け、採算性については変動幅が考えられる。
- 仕入以上の需要はなかったと言える。
- コロナにより飲食業界の不調。半導体不足による製品（機器）不足により当社の仕事量減少。

【その他】

- 仕入、人件費、光熱費の上昇が利益を圧迫している。売上は多少上がっているように見えるが、税金（消費税10%）を内税で入れたため、利益には反映していません。
- 不動産の高騰が買い手を慎重にさせ動きが鈍り、そのため全体的な状況は悪化している。
- 入居者が減少。
- コロナでしょうか。

- 仕入単価の上昇による原価率の上昇
- コロナによる制約解除と考えられます。ネット・ロコミで他市町村からのご来店が多くある。
- 販売品目、出店場所の見直しなどの効果が売上増に繋がったと思われる。販売価格の据置によるもの。例年季節による需要減が見込まれる。
- ボールパーク関連の工事が影響。ボールパークに絡む派生工事の影響。